

会 議 要 旨

会議の名称	第7回川越市介護保険事業計画等審議会										
開催日時	令和5年3月27日（月） 14時00分 開会 ・ 16時00分 閉会										
開催場所	川越市医師会館 4階講堂 A～C										
議長	齊藤正身会長										
出席委員	池浜委員、中野委員、吉敷委員、田畑委員、片野委員、宮山委員、菊池委員、平島委員、荻野委員、入江委員、長峰委員、藤崎委員、村田委員、米原委員、横田委員、中原委員、粕谷委員（17名）										
欠席委員	樋口委員、川越委員、佐藤委員、小林委員、										
事務局職員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">福祉部</td> <td>近藤部長</td> </tr> <tr> <td>高齢者いきがい課</td> <td>坂口課長、内門副課長、時崎主事</td> </tr> <tr> <td>介護保険課</td> <td>奥富参事、内田副課長、円城副主幹</td> </tr> <tr> <td>健康づくり支援課</td> <td>後藤課長、関根副主幹</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア推進課</td> <td>富田課長、渡辺副課長、内藤副主幹、 関根主査、飯田主任、石川主事</td> </tr> </table>	福祉部	近藤部長	高齢者いきがい課	坂口課長、内門副課長、時崎主事	介護保険課	奥富参事、内田副課長、円城副主幹	健康づくり支援課	後藤課長、関根副主幹	地域包括ケア推進課	富田課長、渡辺副課長、内藤副主幹、 関根主査、飯田主任、石川主事
福祉部	近藤部長										
高齢者いきがい課	坂口課長、内門副課長、時崎主事										
介護保険課	奥富参事、内田副課長、円城副主幹										
健康づくり支援課	後藤課長、関根副主幹										
地域包括ケア推進課	富田課長、渡辺副課長、内藤副主幹、 関根主査、飯田主任、石川主事										
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 資料1 第6回川越市介護保険事業計画等審議会会議要旨（案） 3 資料2 医療・介護の多職種から現場の声を聴く会 概要 4 資料3 生活改善に必要なサービス 5 資料4 川越市高齢者等実態調査について 6 資料5 介護人材について(令和4年度介護サービス事業所等実態調査集計報告) 7 資料6 次期計画の策定スケジュール（案） 8 参考資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 前回調査との比較 9 参考資料2 保健・福祉等実態調査 前回調査との比較 10 参考資料3 保健・福祉等実態調査【介護保険認定者】 前回調査との比較 11 参考資料4 リスク判定比較 前回ニーズ調査との比較 12 参考資料5 在宅介護実態調査 前回調査との比較 13 参考資料6 令和4年度 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議 資料抜粋 										

議 事 の 経 過

	<p>1 開会</p>
	<p>2 あいさつ 会長あいさつ</p>
	<p>3 報告 (1) 第6回川越市介護保険事業計画等審議会について</p>
事務局	<p>【資料1、資料2、資料3】を基に事務局より報告。</p>
会長	<p>資料1について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p> <p>(異議なし)</p>
会長	<p>資料2について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>1点目。資料2の5ページ目、③事業所への支援の介護サービス事業者への支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護で、ニーズはあるが、使いにくさもあると記載されているが、使いにくさとは具体的に何を指しているのか。</p> <p>2点目。5ページ目の⑤地域の担い手の活用の、退任された民生委員や介護予防サポーターの活用で、地域の見回り活動に協力してもらえるような仕組みづくりとある。以前も提案したが、シルバー人材センターを活用してはいかがか。現在、実際に就業しているのは7割で、3割の方は未就業。約2200名登録しているので、約660名が未就業となっている。この方々を見守り活動に活用できないか提案したが、シルバー人材センターは人に関する事業は難しい状況。シルバー人材センターと川越市で話し合い、川越市の方から提案することも検討してほしい。</p>
事務局	<p>1点目について、定期巡回の使いにくさとして事務局が把握しているのは、金額が高いところである。定期巡回は1カ月間のマルメ請求になっているため、少し使っても一定の金額となり、しかも在宅サービスの中では高い設定になっている。また、定額サービスと聞くと、たくさん訪問してもらえると考えるが、実際は事業所のリソースもあり、訪問頻度の基準がある。その折り合いがつかないという話を聞いている。</p> <p>2点目について、以前ご指摘をいただいた際、シルバー人材センターに職員が出向き認知症の教室を開く等、会員の方が認知症の理解を持って仕事に従事できるよう連携を図った。また、地域での見守り活動をしている団体として、老人クラブがあり、シルバー人材センターが老人クラブに出向いて仕事</p>

	<p>の紹介をする等の連携もしている。引き続き、シルバー人材センターの会員の方が、見守りに興味を持つことや、未就業の方に何かできないか連携を図りながら検討していきたい。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>5 ページ目に「退任された民生委員」と書いてある。退任する民生委員は、高齢が理由の場合も多いが、どのような根拠で記載したのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>医療・介護の多職種から現場の声を聴く会で「退任された民生委員が持つノウハウ・知識・経験を有効活用できれば良い」という主旨の意見があったため、記載した。</p>
委員	<p>民生委員には守秘義務があり、また、地域包括支援センターと協力して進めてきた。退任した民生委員が同じような仕事をするのは難しいのではないか。意見として述べておきたい。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>3 ページ目の「③介護の技術不足」ということで、実際に介護した人の成功体験を聞く機会があると良いのではないか。また、成功体験をされている方の意見や経験談をまとめていなければ、小冊子にするか、あるいは計画に事例として挙げたら説得力が出る。例えば、老いに対するイメージを持つこと、認知症の段階のこと、排泄の介護等、実際の大変さや心構えがあれば参考になるので、まとめて資料として残したら良いと感じた。</p>
事務局	<p>今回、実際に現場サイドから出た意見・考え・提案について、委員の意見を踏まえ、積極的に計画に取り入れていきたいと考えている。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>3 ページ目の「⑤環境因子」で、「一人暮らし世帯の方の相談は、近隣住民が不安で地域包括支援センターに連絡がくることがある」とある。これは、一人暮らしの方が近隣住民の方に不安を抱いているのか、一人暮らしでいる方について周りの方が心配しているのか、分からなかった。</p> <p>4 ページ目の課題と原因に対する対応策や解決策のアイデアは、施策に生かせると良い。金銭管理ができる支援、手続きの簡単な制度、有償ボランティア、認知症の症状が強い場合の市から横出しサービス等、具体的な意見もあった。具体的にどのように進めようと考えているか。</p>

事務局	<p>5 ページ目の「④普及啓発」で、「小学校・中学校・高校・大学におけるカリキュラムの導入」とあるが、老いのイメージや介護の成功体験も子どもが知っておくと良いのではないか。</p> <p>3 ページ目の⑤環境因子での質問は、近隣の方が一人暮らし世帯の方を心配して、地域包括支援センターに連絡が来るという意味。</p> <p>4 ページ目・5 ページ目のアイデアについても、できること・できないこともあると思うが、検討を進めていきたい。例えば、4 ページ目の「認知症の症状が強い場合」の横出し・上乘せのサービスについては、現場の声として真摯に受け止めている。一方で、介護保険料等の他への影響もあるので、委員の意見を参考にしながら検討したいと考えている。</p>
会長	<p>次の審議会まで約2カ月間も空く。その間に、できるだけ多く現場の声を聴く機会を作り、次の計画に役立つようなまとめをしていければ良いと思う。委員も協力をお願いしたい。</p> <p>資料2について、他にいかがか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>資料3について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>4 議事</p> <p>(1) 川越市高齢者等実態調査について</p> <p>【資料4】を基に事務局より報告。</p> <p>資料4について訂正が5点。</p> <p>1点目は、3 ページ目の表「保健福祉等実態調査」前回有効回答率が47.7%とあるが、正しくは35.8%である。</p> <p>2点目は、4 ページの4 行目「前回より回収率が6.7ポイント向上しており」と記載されているが、6.7ポイントではなく、5.2ポイントである。</p> <p>3点目は、19 ページ目の左側の表「行っていること」について、40歳～64歳調査の3番目は「テレビゲーム・スマホゲーム29.0%」となるため、以降の順位が繰り下がる。また、65歳以上調査の5番目は「農作物の栽培20.5%」となる。</p> <p>4点目は、20 ページ左側のグラフの3項目目「時間があれば休養などにあてたい」の40～64歳調査は10.2%ではなく、正しくは20.2%である。</p>

	<p>5点目は、45ページ左下のグラフ「ヤングケアラーの就学状況」について、中学生2人・高校生5人とあるが中学生3人・高校生6人に訂正する。</p>
会長	<p>大事なことは、調査結果の数値が改善・解決できることかどうかの区別と、解決できるならどのように解決するか。それを審議会で話す、あるいは事務局から提案することかと思う。資料4について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>36ページ目の人生会議という言葉は、どのような意味か。</p>
会長	<p>時期が来る前に、どんな最期を迎えたいか、個々で考えていこうということである。そして、本人に関わるみんなでそれを意識する。それから、サービス提供という形で話し合う。それを推し進めているところ。埼玉県は埼玉県医師会と一緒に、人生会議に関するノートを作っている。地域包括支援センターに配り、人生会議の勉強会・説明会を始めている。</p>
事務局	<p>医師会に委託している在宅医療拠点センターで、出前講座として人生会議を市民に行っている。依頼があれば職員が出向き、人生会議とは何か、自分の最期をどのように迎えたいか、家族がどのように迎えたいか、そのポイントを一緒に考えている。希望があれば、連絡してほしい。</p>
会長	<p>川越市でも、さらに宣伝してほしい。今、担当医師が約6名おり、毎年3人ずつ増えている。もっと出前講座に呼んでほしい。</p>
事務局	<p>承知した。宣伝を積極的に行っていく。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>改善できるような観点から質問する。まず、1点目。集計の際に無回答を外して割合を出しているように思う。単純集計で傾向を見る場合、一般的には無回答も入れる。前回の調査報告書でも全て無回答を外して集計していたが、今回も同じようにするかは検討した方がよい。</p> <p>2点目。次の審議会では、骨子案の検討に入る予定となるかと思う。現在、介護保険事業計画は地域包括ケア計画と位置づけられており、日常生活圏域ごとの計画策定が重要であるが、圏域ごとの分析が骨子案に出るのか教えてほしい。</p> <p>3点目。川越市は医師会長が会長を務めているため、医療関係者の協力を得やすいという点で恵まれていると言える。地域包括ケアシステムの構築では、医療介護連携が重要課題となっている。今後の計画では医療介護連携を</p>

	<p>しっかり打ち出せると良い。ただ、人生会議はまだ周知が足りていない。そうすると、在宅医療に関しての調査結果が気になる。資料4の34ページ目の設問では、「家族に負担がかかる」の項目が圧倒的に多いと説明があった。反対に、「往診してくれる医師がいない」「訪問看護・介護体制が整っていない」の項目は、それぞれ1割～2割程度で割合は高くない。これは、環境がしっかり整っているから、ネックとなるのが家族の負担や覚悟なのか。それとも、まだ在宅医療の現状を市民が知らないため、ともかく家族の覚悟が前面に出ているのか。この調査結果の解釈によって、計画でどのように生かすかわかると思う。</p>
事務局	<p>1点目について、今回の調査報告書も前回の令和元年度の調査と同様に無回答を入れない形で割合を出している。報告書を修正することは難しいので、次回以降の課題とする。</p> <p>2点目について、日常生活圏域ごとの集計は行っている。その整理が終われば、圏域ごとの特徴を示すので、議論していただきたい。</p> <p>3点目について、「往診してくれる医師がいない」「訪問看護・介護体制が整っていない」を回答した方は、実際に使いたいがそのような体制がないと感じた方だと解釈している。あくまでも、回答した方の印象として考えている。</p>
会長	<p>無回答を入れた割合だと、データの質が変わってくる。無回答者がどのくらいいたのか、知っておいた方が良い。</p>
事務局	<p>無回答者数は把握している。前回の令和元年度の調査と構成を合わせるため、今回も同様の割合算出方法にした。</p>
会長	<p>圏域ごとの分析は必要。また、34ページ目は在宅医療についての質問ではない。具体的な内容になっていないところもある。この問題は、CCN かわごえ等でデータを見てもらうのはどうか。在宅医療というテーマで、このような項目になるのか。</p>
事務局	<p>調査では、設問をテーマで分けている。34ページ目の設問は、在宅医療というテーマの中の設問になる。この設問の前に、在宅で最期を迎えることを希望するか、また実現可能だと考えるかという設問がある。</p>
会長	<p>今回、アンケート調査の調査対象者だった。コンピュータで回答したくても二次元コードでは回答ページまで行けず、URL を打たなくてはならない。この調査に限らず、検索すれば回答ページが開くようにしてほしい。自分で回答してみると、案外難しい項目が多い。それが無回答につながるかもしれ</p>

	<p>ない。これが、今後考えるところだと思う。</p>
委員	<p>資料3に戻って質問したい。資料3について、委員からの助言で要介護2以下の方に注目したと説明していたが、要介護3以上の方も大事である。他に行くところがなく、グループホームや特別養護老人ホームを利用している方もいる。一人暮らしの方が増えた場合、一人ひとりの家庭に訪問する訪問介護を充実するよりも、施設の中で見ていく方が良い面もあると思うので、検討してほしい。</p>
事務局	<p>説明の主旨は、要介護3以上の方を軽視するという意味ではない。何か少しだけ支援をすることで在宅生活を続けられる方は、要介護3以上だと厳しいが、要介護2以下なら可能ではないか。要介護2以下の調査結果をよく見るという主旨である。在宅生活がどうしても難しい場合、施設に入ることは当然想定されるので、必要なサービスは整備していかなくてはならないと考えている。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>45ページ目のヤングケアラーについて、調査対象が要支援・要介護認定者だったと思う。認定者から見て「私にはヤングケアラーがいる」という見方と、子ども側から見て「私は時間を犠牲にして、介護が必要な方のお世話をしている」という見方がある。両方の結果をすり合わせないと、正確な数字は出てこないと思う。川越市として、子ども側にヤングケアラーの調査を行っているのか。</p>
事務局	<p>ヤングケアラーの調査は、こども未来部で昨年9月～10月に実施した。対象者は、市内の小学校4年生～6年生、中学校1年生～3年生、市立高校1年生～3年生、特別支援学校1年生～3年生である。</p>
委員	<p>子ども側にもヤングケアラーの調査を行っているなら、その結果も含めて計画を立てた方が良い。子どもが介護しているという言葉のイメージは良くないが、人の面倒を見て話を聞くことが楽しいと感じる子どもはいると思う。</p>
会長	<p>アンケート調査結果を生かしたい。川越市はこの部分に対してこんな対策を立てたということ、皆で決めていきたいと思う。委員が話して、それを事務局が持ち帰り検討するというのが理想的。他にいかがか。</p>
委員	<p>今回調査の独自項目である、頼られること・頼ることへの抵抗感について</p>

	<p>の結果が大変興味深い。本人が頼ることには躊躇する一方、頼られることについては抵抗がないと感じる人の方が高い割合だった。地域活動を進める際に、大変心強い調査結果だったと思うので、こういった意識を上手く活用できると良い。</p>
副会長	<p>今、調査の難しさを感じている。資料4の35ページ目の在宅医療について、実際にこの設問を現実の課題としている方は一部に限られると思う。往診してくれる医師がいないと答えた方は、目の前にそのような切実な課題があり、探してみても難しいと感じたのではないか。しかし、多くの方は在宅医療・在宅看取りについて、どういうものなのか、本人や家族にとってどんな喜びが伴うのか、分からないのかもしれない。在宅医療・在宅看取りについて、詳しく知っている市民は、ほとんどいないのではないか。市民に周知の機会を設けることも、方策になると感じた。</p>
会長	<p>市民健康公開講座等を、このようなテーマにすれば良いのかもしれない。往診してくれる医師がいるかいないか知らない場合も、無回答に繋がっているのではないか。他にいかがか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>【資料5】を基に事務局より報告。</p>
会長	<p>資料5について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>9ページ目の高校新卒正規職員の賃金について、高卒初任給全国平均(全産業)が18万円とある。年収では、どのようになっているのか。</p> <p>10ページ目の管理職の年収について、平均年収は介護老人福祉施設が多く、訪問介護・認知症対応型共同生活介護が少ない。施設の介護者の方が、処遇は良いのか。だとしたら、どうしてなのか気になった。</p> <p>12ページ目の外国人雇用について、上から3番目の文章を変えた方が良い。「外国人を実際に雇用してみると、職員の会話や生活習慣の違いは、大きな課題となっていないものの、介護記録の作成のような日本語文章力が大きな課題となっていることがうかがえる」とあるが、利用者との会話は、両者とも上位に入っている。特に利用者との会話が課題なのではないか。</p>
事務局	<p>高校新卒正規職員の賃金ですが、年収は事業所によって手当・固定残業代・賞与月数も違うため、比較しても参考にならないと考えている。初任給に関して、基本給と定額的に支払われる手当はきっちり調べられるので、これを比較する意図で設問は作っている。</p>

	<p>管理者の年収について、認知症対応型共同生活介護や特定施設入居者生活介護は施設なので、処遇があまり芳しくないのは問題だと思う。経営面の問題もある。1つの事情として考えられることは、経営のスケールメリットを生かせないような小さい施設だということである。介護老人福祉施設は100名くらいの大型施設で、認知症対応型共同生活介護は川越市内では18名、特定施設入居者生活介護は大きくて80名くらい。管理者の賃金を上げるところまで至っていないのかもしれない。</p>
会長	<p>介護老人福祉施設の方が、平均年齢が10歳ほど高い。</p>
事務局	<p>外国人雇用の課題については、委員の意見の通りだと思う。ただ、文章として、あくまで比較して違う部分を書いた。外国人雇用は、重要なテーマになる。計画策定に向けて、具体的な進め方を示すので議論してほしい。</p>
会長	<p>外国人雇用は、出身国や受けてきた教育等で違う。簡単な話ではない。それと、全国同じような課題があると思うので、国が今後どのように考えるのかは大きい。</p>
委員	<p>新聞に、外国人の介護士の合格者数が載っていた。去年の倍くらいの人数であり、750人。ベトナム、フィリピン、インドネシアが多かった。経済連携協定の国の方だと、日本語はある程度話せるようになり、利用者との会話はそこまで苦勞しないのかもしれない。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>9ページ目、高校新卒正規職員の賃金が出ている。ここ10年ほど給料が上がっていなかったが、今年からは若干上がるとされている。直近のデータを出してもらえれば納得できるが、ここは引っかけるところかと思う。このあたりを踏まえた方が良い。</p>
委員	<p>そもそも、介護職員が足りないと言われているが、川越市の施設全体では、どの程度足りなくなっているのか聞きたい。これから高齢者の人口増加がピークになるが、それにあって川越市の施設の建設がどうなっているのか。</p>
会長	<p>昨年の介護保険事業計画があり、去年のデータを見れば分かると思う。</p>
事務局	<p>令和5年度4月から、川越市内で80床の介護付き有料老人ホームが1か所できる。それから、認知症対応型共同生活介護という18人定員の施設が1か所できる。また、在宅サービスや通所・デイサービスは、条件さえクリ</p>

	<p>アしていれば新しく新設できるためか、毎月大体4～5件は増えているような状態。申請時に、最低限の職員数がそろっていないと許可しないので、サービスが提供について今現在は維持できている。ただ、若い人が少なく、将来サービス提供の体制を維持するだけでも課題が残る。今後、人材確保に関しては埼玉県との連携が非常に重要になる。連携しながら、川越市は川越市での対策を取っていきたいと考えている。</p>
会長	<p>処遇が全体的に上がらないと、介護分野の仕事に就く人が増えてこないと思う。他にいかがか。</p>
委員	<p>13ページ目に効果があった事業所とあるが、効果があったとする根拠を指定しているのか。それとも、それについて取り組んでいるということなのか。</p>
事務局	<p>この設問の1つ前にある設問が、このような取組を行っているか行っていないか、と聞いている。なので、実際に取組を行った事業所が、この取組に関しては効果があったと判断しているものだと受け止めている。一つひとつの集計結果は、来月に冊子の形で渡す予定。</p>
会長	<p>他にいかがか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>(2) すこやかプラン・川越 川越市高齢者保健福祉計画・第9期川越市介護保険事業計画 策定までのスケジュール (案) について 【資料6】を基に事務局より報告。</p>
会長	<p>遅れずにしっかり進めていきたい。国の基本指針は大事だが、川越市ではここを大事にしたいというのを一緒に考え、それが第9期計画の目玉になると良い。資料6について、事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>5 その他 なし</p>
事務局	<p>6 閉会 次回開催は、令和5年6月30日(金)、川越市医師会館を予定。</p>